

図書館たより

号 数 第 46 号
発行日 昭和55年3月25日
編集 島根県立図書館
発行 松江市内中原町52
TEL (0852) 22-5725
印刷 渡 部 印 刷

80年代幕明けの年に

55年度の予算が決った。55年度の県立図書館の予算は、大きな特徴が2つある。1つは、県内の読書普及事業が60年度までの継続事業として認められたことであり、2つ目は、資料購入費が2千万円の大台に達したことである。

第1の読書普及事業というのは、この館報でお知らせしてきたように、昨年度秋県教育委員会は県立図書館協議会からの県内の読書振興の方策についての答申に基いて、60年度までの島根県読書振興計画を策定し

た。この計画には、県教委と市町村とが一体となって県内の読書振興を推進するための各種の施策が盛り込まれている。その中でも最重要施策である市町村の読書普及事業の継続実施が財政的にも認められたことは、今後モデル市町村を中心に図書センターとB・Mを両翼として、読書普及を本格的にすすめて行く上で強力な推進エンジンを手に入れたことになる。

第2の資料購入費の伸びはこれまで遅々とした歩

みであったが、やっと2千万円の舞台にのった。これをバネとして一層飛躍しなければならない。当面55年度は振興計画の方向をにらみながら、効果的な資料整備を図ることとする。また、これに関連して、当館を直接利用される方々へのサービス強化を考えて、一般資料室を拡張して配架図書を増やすことを考えたい。現在一般資料室の書架には約3万冊の図



(子どもによる親子読書発表会) 山陰中央新報社提供

書を並べているが、55年度から3ヶ年計画で約5万冊にする予定である。

80年代は不透明の時代という声もあるが、県立図書館の向う方向に関しては、振興計画によって極めて明

確となっている。また80年代幕明けの年に、読書普及事業が少なくとも85年まで認められ、資料費が2千万円の舞台に達したことは、誠に心強いことである。各種の事業を力強く、地道に続けて行くので、関係の方々のご理解とご協力をお願い致したい。

島根県立図書館長 林 暁 二

ふるってご参加ください！

昭和55年度 県立図書館各種講座

申込方法 — 「住所・氏名・電話番号・受講講座名」をハガキか電話で、
〒 690 松江市内中原町52 県立図書館管理課普及係まで

申込期日 — 4月30日まで TEL 0852・22・5730

区 分	県立図書館主催事業（テキスト代を除き無料）				県立図書館協力事業	
事業名	出雲国風土記を読む会	近代郷土人物講座	古文書を読む会		図書館読書教室	源氏物語を読む会
			入門講座	近世講座		
開催日	4.6.8. 10.12.2月 第3火曜	5.7.9. 11.1.3月 第3火曜	毎月 第1土曜	毎月 第3土曜	毎月 第3火曜	毎月 第2・4木曜
時 間	10:00～ 12:00	10:00～ 12:00	13:30～ 15:30	13:30～ 15:30	13:00～ 15:00	14:00～ 16:00
会 場	県立図書館	県立図書館	県立図書館	県立図書館	県立図書館	県立図書館
募集人員	50名	50名	50名	50名	30名	30名
対 象	一 般					
講 師	県立図書館資料課長 藤岡大拙	県立図書館管理課長 藤沢秀晴	県立図書館資料課長 藤岡大拙	県立図書館管理課長 藤沢秀晴	読書関係の 指 導 者	元広島女学院大学教授 宍道 達
内 容	わが国でただ一つの完本としての「出雲国風土記」を講読しながら古代出雲の実相を把握し、郷土のもつ深い歴史性を理解する講座です。	明治以降輩出した郷土に関係の深い人物にスポットをあてながら単なる鑑仰にとどまらないリアルな眼で人と時代とのかかわりを考えてみる講座です。	県立図書館が編集した「古文書ハンドブック」その他のテキストを使用します。初歩から手ほどきし、読解力の養成につとめる講座です。	入門講座を終えた程度の読解力をもつ人が対象になります。テキストを使用し、て読解はもとより史料の背景をなす郷土の歴史に及ぶ講座です。	読書にしたいしみながら人生に社会にあるいは文化に対する見方、考え方を養う目的から誰でも気軽に参加できる講座です。参加者はグループを作って、集団読書のかたちで和やかに意見の交換、体験の交流をはかります。	引き続いて「源氏物語」の講読と鑑賞を行います。原文の解説にとりくみつつ王朝文化の精髓にふれる高度な講座です。今年は「東屋」の巻から始まります。 (要受講料)

石見町図書センター

石見町は旧5カ村が合併してできた町で現在中央公民館の外に地区公民館4館が分立して読書普及活動を行っています。

昭和50年に開設された石見町図書センターは中央公民館一階に設けられ約5,400冊の蔵書数で現在に至っています。

年間3回、1館1回につき約400冊ずつの図書を配本し地区公民館からも独自に貸出しをしています。月・水・金曜日に館長一人で開館しているため利用者の少ないのが現状です。この対策としては、話題となっている新刊図書を配本し、広報無線によって紹介するなどしていますが、なかなか効果はあがりません。

中央公民館においては、祝日以外は開館します。また学校が近くにあるため、小学生、高校生の利用者はかなりあります。

現在活動している読書グループとしては、古文書読書会、婦人読書会の2つがあります。

古文書読書会は会員数15人位のグループで月に約2回、石見町にある古文書や県立図書館から貸りた資料を毎回、講師指導のもとに解説しています。

婦人読書会も、当図書センターに同じ本が何冊もないため、県立図書館から10冊位借り、その本を各々読んだ後、感想を述べあったり、難解な本、特に感動した本などにおいては、その作品になんらかの関係のあった方を講師として招き、いろいろな話を聞くこともグループ員の間では好評のようです。

親子読書を55年度より計画しています。対象は町内の4、5才の保育園児約100人で、4カ所ある保



(話がはずむ読書会)

育所のうち2カ所に絵本を200冊ずつ配本、園児一人に一週間貸出す予定です。

家庭の方にはまだ、親子読書について知らない方もかなりあると思います。毎日5分程度の読み聞かせでも、同じ本を一週間続けるとなると、充分、親子読書とは何かを理解してもらう必要があり、そのためには、保育所から貸出しをするため、保母さんが家庭に指導、助言できるようになることが第一です。近日中に関係者全員で県立図書館の方の指導を受けるつもりで準備中です。

最後になりましたが、55年度でいよいよ図書センター活動も終了となり、56年度には公共図書館へと移行することとなりました。その準備として、まず、図書館設置条例の作成、司書の育成、の段階に入ってい

ます。56年から58年までは、中央公民館内で公共図書館として運営、58年度には郷土資料館を兼ねた町立図書館の建設がはじまります。

石見町には多数の古墳など郷土資料に恵まれ、図書施設も町民一人一冊以上の蔵書冊数がそろえられれば文化施設として一層活躍できるものと確信しております。 文責 社会教育主事 宮本博行

県下読書施設の横顔(6)

——ユニークな活動を中心に——

問 ラフカディオ・ハーンが出雲へ来る途中、上市という所で盆踊りを見ているが、それはどこで、今もハーンの見た盆踊りは続いているか。

答 明治23年、ハーンは松江尋常中学校の英語教師として赴任するため、東京から姫路まで汽車に乗り、姫路から津山を経て、山陰道を通って8月30日に松江へ着いています。この山陰道旅行の8月28日の夜、盆踊りを見たのです。このことを彼は、著書『知られぬ日本の面影』第六章「盆踊」に書いています。ハーンは「広重の浮世絵の中にあるような村、広重の風景に実によく似た色彩を有する村、これは伯耆の国上市だ」と書き、この夜近所の寺で見た盆踊りを印象深く書き留めています。この土地は現在、鳥取県西伯郡中山町下市で、泊った宿は下市の谷川氏宅(屋号そうめん屋)とも牧野氏宅(屋号倉吉屋)ともいわれています。ハーンを魅了した盆踊りのあった寺は下市の妙元寺です。下市に続く東隣の地に上市(うわいち)という地区がありますが、ハーンは誤って下市を上市と、また「うわいち」も「かみいち」と書いたのです。この夜の盆踊りを忘れかねたハーンは翌年の夏、再び踊りを見るため下市を訪れますが、その時、この地にコレラが流行していて、踊りは禁止されていて見る事が出来ませんでした。妙元寺は現存していますが、もう盆踊りはおこなわれておりません。

問 ラフカディオ・ハーンにアメリカでの恋人がいると聞きましたが、いたのでしょうか。その後どのようになったか知りたい。

答 恋人としていいかどうか疑問ですが、エリザベス・ビスランドがその女性にあたるとされます。彼女は南北戦争のため破産したルイジアナ州の大地主の家に1861年に生まれました。家計を助けるために新聞記者としてニューオリンズのタイムデモクラット社に入りますが、その時、ハーンは同じ社の文芸部長の職にありました。二人の出会いは1882年、ハーン33才、ビスランド21才の時です。ハーンの記事に魅かれたビスランドが進んで交際を求めたといわれています。二人は互いに文学・芸術・哲学・思想の話など尽きないテーマを語って深い友情と尊敬で結ばれていました。二人の間に友情以上の感情があったかどうか、日本へ来たハーンがビスランドへ送った書簡(ビスランドが公表したもののみ)の解釈で研究者の中でも、恋人とする人もいます。ハーンは手紙で彼女へ「私の妹」と呼びかけています。ビスランドは大の日本びいきでした。緑茶を飲み、刺身を食べ、茶の湯、花を学ぶほどでした。そして日本へ4回来ています。ハーンが日本へ来る以前に取材で訪れ、ハーン来日後彼の世話をするマクドナルドを紹介したのも彼女です。しかし、ビスランドはハーンが日本へ来てから、その生前に日本を訪れることはなく、死後3回にわたって来日しています。ハーンが小泉節と結婚した1年後に彼女は結婚し、ウェットモア夫人になりました。ビスランドはハーンの死後、『伝記及び書簡集』2冊と、『日本の手紙』1冊をまとめて発表しました。これはハーン研究に欠くことのできない資料といわれます。ハーンとビスランドの間柄について、佃実夫は『わが小泉八雲』(昭和52年刊)に美しく小説風にまとめています。又近刊(昭和54年)の西野影四郎『光と炎の人小泉八雲』もこの辺の友情を興味深く書いています。

問 『知られぬ日本の面影』と『日本瞥見記』は同じものですか。又『知られざる日本の面影』といういい方もいいのでしょうか。

答 両書は同じものです。これはハーンの原書名「GLIMPSE OF UNFAMILIAR JAPAN」の訳者によって日本書名が異なるだけです。GLIMPSEは「ちらっと見ること」。UNFAMILIARは「よく知らない」「見覚えがない」「初めての」という意味がありますから、『知られぬ日本の面影』はUNFAMILIARを強調し、『日本瞥見記』はGLIMPSEを強めて訳したものといえるでしょう。全集を訳した落合貞三郎は『知られぬ日本の面影』とし、平井呈一は『日本瞥見記』としています。尚、梶谷泰之・池野誠訳では『知られざる日本の面影』となっています。

参考文献

- 『小泉八雲全集』18巻(落合貞三郎・大谷正信訳・第1書房・昭和2年)
- 『小泉八雲著作集』12巻(平井呈一訳・恒文社・昭和42年)
- 『小泉八雲集』(築摩書房・昭和45年)
- 『L・ハーン・知られざる日本の面影』(梶谷泰之・池野誠訳・文化評論出版・昭和41年)
- 『へるん先生生活記』(梶谷泰之著・今井書店・昭和39年)
- 『山陰史談』8号(山陰歴史研究会・昭和49年)
- 『伯耆・出雲郷土史跡めぐり』(鳥取県立米子図書館・昭和47年)

戦況が絶望的な様相を呈していた昭和20年5月17日の午後、静かな大学構内の一室、九州大学医学部解剖実習室で何がおこなわれたか。その日から半月の間に計4回、当時西部軍の収容所に捕われていた8人のB29搭乗員が、生きたままこの室で解剖されたといわれる。昭和23年、軍事裁判で絞首刑5人を含む23人に有罪判決が下され、昭和33年最後の戦犯が巣鴨から釈放されたとき、この事件は幕を閉じた。

米国の国立公文書館に眠っていた公判記録、かたくなに沈黙を守ってきた当事者からの聞きとり等の克明な調査から、著者は事件の真相にせまる。猟奇的で陰湿なこの事件を単に「告発」「糾弾」という立場からだけでなく、「もし私がその場にいたら、孤高を保ちえたか」と問いかけながら。

戦後34年、戦争の体験は風化しつつある。戦争という異常な状況は、個人の理性を超えた異常興奮を生み出し、一人ひとりが人間の弱さをさらけ出しながら社会と個人を徹底的に荒廃させることを教える。

海外花の旅 矢野 勇著

朝日ソノラマ 1,500円

この本は、著者が約8年の間に20数カ国の国を訪れて撮った花の写真集である。

特にこの写真集では、アラスカの雄大なマッキンレーの山すそに広がるお花畑とか、ビルマの山奥の苔の生えた岩場に群生する高山植物など、温室栽培には見られないのびのびとした野性の強い生命力がうまく撮られている。

氷河と花と森林の香りのするカナダ、薄紫つつ、そして、フランスのシャモニに咲く可どちらかと言えば、赤道を中心にしてやや南で豪華である。

白いプルメリアの花が海風にゆれるオアフき乱れるニューカレドニア、南国の情熱的な動的であると思わせるカラフルな本である。

茶の文化史 村井康彦著

岩波書店 320円

日常茶飯事ということばがあるように、喫はどんな恰好して飲んでもよいではないか、まわる。本書はそうした疑問や批判に答えう

まず、なぜ茶礼が要求されるようになったいる。前者は例えば茶会席の母胎である京料付や盛合せを考え、それにふさわしい器を用いる。そこには日常離れの虚構性、非日常性の後者は茶の湯が人と人のかかわりの中で行重視され美意識よりも倫理が求められ、今日の道につながる求道性がうまれる。

この寄合性と虚構性が具わってこそ、茶の湯は成立する。

また著者はこの2点を根底において、日本の歴史において茶はどのように人々に嗜まれ、日本独特の生活文化としての構造と特質をそなえてきたか、そしてそれは他のさまざまな文化現象とどうかかわっているか、長年の史料探索と調査にもとづいて書き下している。

日毎の美女 一新・醜女の日記— 田辺聖子著

講談社 880円

大阪のとある会社に勤めるOLの日記、といっても別に日付けを追って書かれているわけではない。副題で醜女の日記とあるとおり醜女の日々の過ごし方、扱われ方がユニークに描かれている。見目より心とはよく言うが、そんなことは稀れであり現実には厳しい。美女と醜女に対する世の男どもの態度の差は甚だしいものがある。美女は女神で、醜女はゴミにも劣る目の毒という存在なのである。そうした男どもの扱いに憤慨しながらも、それをおくびにも出さないとところが主人公の賢いところで、逆に仲良しの美女に群がる男どもの鼻の下を長くした様子を、何くわぬ顔で密かに観察し楽しんでいる。その観察状況は多少オーバーな面がなきにしもあらずだが、頷くこと頻りである。結局、見目より心という男性が現われてハッピーに終わるのだが、醜女の楽しい男性観察日記といった作品である。

新刊紹介

のリンドウの花に雪が降るスイスのサンモリ憐なヒナゲシなど北半球で咲く花も美しいが、半球に広がる植物の方が変化に富み、色鮮か

島へ、あるいは、一面にブーゲンビリアが咲花を求めて海外に出て見るのも又、素敵に感

茶はきわめて日常的な営みであるため、お茶それをなぜという疑問や批判がいつもついてる茶の湯論である。

か、それを茶の湯の虚構性と寄合性において理において、素材の味や色彩を生かすため味意して季節感を出すところに顕著に表われて次元で楽しむ日本人の文化意識がうかがえる。

われるため、心遣いや振舞いといった礼儀が

読んでみませんか!!

54年度受賞作品—文学を中心として—

今年度も数々の話題をよんだ受賞作品がありました。

今回はその中から主として文学に関する受賞作品を13種選びました。

賞 名	書 名	著 者 名	出 版 社	賞 の 由 来
茶 川 賞 81回	「愚者の夜」 「やまあいの煙」	青 野 総 重 兼 芳 子	文 芸 春 秋 社 文 芸 春 秋 社	故芥川龍之介の名を記念して 文芸春秋社が創設した純粋文学賞
82回	「モッキングバード のいる町」	森 禮 子	文 芸 春 秋 社	
直 木 賞 81回	「香具師の旅」 「ナポレオン狂」	田中小実昌 阿刀田 高	泰 流 社 講 談 社	故直木三十五の名を記念して文 芸春秋社が創設した大衆文学賞
読売文学賞 小説賞 戯曲賞	「妙高の秋」 「しみじみ日本・乃 木大将」 「小林一茶」 「犬が星見たロシア 旅行」	島 村 利 正 井 上 ひ さ し	中 央 公 論 社 新 潮 社	読売新聞社が小説、戯曲、随 筆紀行、詩歌俳句、評論伝記 研究翻訳の部門の優秀作に授 与する。
随筆 紀行賞		武田百合子	中 央 公 論 社	
女流文学賞 18回	「幸福の絵」 「誰袖草」	佐 藤 愛 子 中 里 恒 子	新 潮 社 文 芸 春 秋 社	女流作家の作品中から最優秀 作に授賞「婦人公論」が主宰
大宅壮一ノンフィ クション賞 10回	「テロルの決算」 「サイゴンからきた 妻と娘」	沢 木 耕 太 郎 近 藤 紘 一	文 芸 春 秋 社 文 芸 春 秋 社	すぐれたノンフィクション作 品に贈る。文芸春秋社が創設
吉川英治文学賞 13回	「ふおん、しいぼろ との娘」上・下	吉 村 昭	毎 日 新 聞 社	吉川英治の名を記念して、吉 川英治国民文化振興会が贈る。
日本推理作家協会 賞 32回 長編賞	「大誘拐」 「スターリン暗殺計 画」	天 藤 真 桧 山 良 昭	カンガイ出版 徳 間 書 店	日本推理作家協会がすぐれた 推理小説、評論に贈る。
平林たい子賞 7 回	「麦熟るる日に」 「うつしみ」 「ドストエフスキー」	中 野 孝 次 上 田 三 四 二 樋 谷 秀 昭	河出書房新社 平 凡 社 河出書房新社	平林たい子の遺志により、平 林たい子記念文学会が贈る。
三大新潮賞 11回	「宣告」上・下 「詩の自覚の歴史」	加 賀 乙 彦 山 本 健 吉	新 潮 社 筑 摩 書 房	新潮社前社長、故佐藤義夫の 遺志により設立されたもの。
菊地 寛賞 27回	「血族」 「毛沢東の悲劇」	山 口 瞳 柴 田 穂	文 芸 春 秋 社 サンケイ新聞	菊地寛の提唱により、多年作 家生活に尽力した人に贈る。
日本エッセイスト クラブ賞 27回	「墨いろ」 「外国人になった日 本人」 「奇談の時代」	篠 田 桃 江 斎 藤 広 志 百目鬼恭三郎	PHP 研究所 サイマル出版 会 朝 日 新 聞 社	日本エッセイスト・クラブが 評論家や随筆家に贈る。
野間文芸賞 32回	「悲しいだけ」 「光の領分」	藤 枝 静 男 津 島 佑 子	講 談 社 講 談 社	講談社が初代社長故野間清治 の各を記念して創設したもの
江戸川乱歩賞 25回	「プラハからの道化 たち」	高 柳 芳 夫	講 談 社	江戸川乱歩が還暦祝賀に基金 を提供して創設したもの。

こどもの本 (4)

読みきかせに適した本

あおくんときいろちゃん

レオ・レオーニ・絵・文

藤田圭雄・訳

至光社 ￥ 800

ちぎり紙の青い小さな丸が「あおくん」、黄色い丸が「きいろちゃん」。顔も手足もない、単純な、抽象的な図形だけで構成されたユニークな絵本。とんだりはねたりひとつになったあおくんときいろちゃんの、はずむ心が重なってまったく違ったみどり色になる。作者のレオーニが孫たちと遊びながら楽しんでつくったといわれるイメージの絵本。白地に散ったさまざまな形のおもしろさ、色の美しさが、幼い子を無理なくこの絵本の世界にはいりこませる。

ありこのおつかい

中川宗弥・絵

石井桃子・文

福音館書店 ￥ 800

小さなアリのありこが、おばあさんのうちへ草の実をもっていく途中のできごと。カマキリの足を草とまちがえてひっぱったばかりに飲みこまれてしまう。そのカマキリはムクドリに、ムクドリはヤマネコに、ヤマネコはコグマにと次々と飲みこまれてしまう。ところが、おかあさんグマがコグマのおしりをたたくと、今度は逆の順序でひとつずつとび出すおもしろさ。くり返しの手法を新鮮な感覚でとり入れたお話で、お腹の中の存在が黒一色とありこの帽子の赤を中心として描かれ、計算された構図のうまさ、子どもの想像性をかりたてる。

あふりかのたいこ

寺島龍一・絵

瀬田真二・文

福音館書店 ￥ 380

たいこの名人ドンガじいさんに教えられて、ダンボ少年は、たいこの音で遠くの村とお話ができる。

ある時、村にけもの狩りの一行が来て、ダンボ少年は道案内にやとわれる。しかし、射撃の腕を自慢するだけのボンボン隊長の狩りの様子を知り、たいこを信号にを使って動物たちの命を守ろうとする。美しい泉のほとりで、命あるものが生きて動いている姿に感動し、命の尊さにめざめていくボンボン隊長――。

デザインの確かさを示す絵、鮮明な淡彩のカラーは、アフリカの風土をいっそう幻想的にし、文と調和した美しさをみせている。読みきかせの進んだ段階に適した絵本。

うみべのハリー

マーガレット・ブロイ・グレアム・絵

ジーン・ジオン・文 渡辺茂男・文

福音館書店 ￥ 600

イヌのハリーは、家の人たちといっしょに海へ出かけたが、かんかんでりのお日さまが大きい。日かげをさがして歩きまわっているうちに、大波にのまれ、ぬれた海草をすっぽりかぶってしまう。ハリーはすずしくなったので大喜びだが、そのすがたを見て海べでは、おばけが出たと大さわぎになる……。

線の太い、パステル調の絵で、海べの風景や、ユーモラスなハリーのすがたを描いている。

うみとモモちゃん

中谷千代子・絵

松谷みよ子・文

講談社 ￥ 480

「モモちゃんは、ママにつれられて海へきました。」赤ちゃんの時、こわいようって泣いたモモちゃんも、保育園に行くほど大きくなったので、もうこわくない。海と、じゃんけんぼん遊びをしながら、かにやひとで、さざえを海からもらって大喜び。「またあしたもね」と楽しみにしていたのに夜になると風が吹き、雨も降りだして……。母親である作者が幼い自分の子どもに、自然界のきびしい二面性を語りきかせるために創りだした素朴な幼児童話。絵も非常に単純で素朴。2才～5才向き。ほかに「あめこんこん」「ルウのおうち」など全12巻

おしらせ

読書施設からの 図書資料リクエスト制スタート

個々の読書施設が利用者の求める図書資料を充分に収集してサービスに応じることは、極めてむずかしいのが現状ですが、むしろ1館だけのサービスではなく、読書施設相互の協力によって、図書資料の貸し借り(相互貸借)またはコピーサービス等をすすめて行くことが、県内のこれからの読書普及活動にとって重要ではないかと思われます。

県立図書館はその相互協力の中核としてサービス活動の充実をめざしていますが、このたびはその活動の一環として、各読書施設において利用者が要求する図書資料がないとき、または予め要求があると思われるもので自館での収集が困難であるとき、県立図書館に当該図書資料を要求して収集させ、相互貸借によって実質的に利用者へサービスし得る“公共図書館等読書施設希望資料収集”制を設けましたので、充分に活用されるようお願いいたします。

この制度の利用方法は次のとおりです。

1. 利用の対象

希望できる施設は公共図書館、図書センター、公民館図書室等。

2. 希望資料の範囲

学術書、参考調査資料、資料的価値の高い講座・全集もの等。ただし、次のものについては原則として希望に応じません。

- ① 高度な医学書及び専門的な科学技術書
- ② 特許資料
- ③ 特に必要と認めるもの以外の海外出版物
- ④ 文庫本等の小型本
- ⑤ その他県立図書館資料収集方針及び館内用資料収集要領で収集しないと定めたもの

3. 申込の方法

申込書(様式)により、県立図書館資料係へ申込む。

4. 収集可否の通知

県立図書館は収集の可否について申込のあった施設にすみやかに通知する。

寄贈図書

ご惠贈

ありがとうございます

書 名	住 所	氏 名
柿木村の民俗	松江市	酒 井 董 美
村の石ぶみ	八雲村	石 倉 諒 一
中沼了三先生御事蹟	松江市	中 沼 郁
齒と童話	松江市	古 藤 要 三
八切日本外史 他	松江市	西 川 宏
幸せのとなり 他	松江市	井 原 繁 子
山陰歌人 他	松江市	安 部 鶴 造
松露亭	飯石郡	田 部 智 久
中世益田氏の遺跡	益田市	廣 田 八 穂
仙台藩の学問、思想の系譜展	松江市	入 谷 仙 介
近世人物夜話 他	松江市	原 綾 子
続尼子裏面史	松江市	岡 崎 英 雄
石州要見録	那賀郡	寺 戸 常 雄
石倉俊寛追想	松江市	石 倉 考 昭
秋上家文書	松江市	大庭大宮神魂神社社務所
日本憲兵正史	松江市	吉 田 敬 三
古本屋ふれあい人生	松江市	ダルマ堂書店
月坂助太郎伝	米子市	野 口 徳 正
和牛入会放牧の研究	松江市	斉 藤 政 夫
月刊考古学ジャーナル	松江市	池 田 満 雄
島根県経済の分析と吟味	松江市	米 田 盛 造
半年輪	松江市	松 浦 富士郎
せんゆう	江津市	原 龍 雄
野菊	美濃郡	児 高 房 夫
日原町史 近代下巻	鹿足郡	日原町教育委員会
歌集・都濃	江津市	河 上 吉 清
出雲のことばあれこれ	大原郡	石 橋 俊 雄
朝酌	松江市	古 藤 敦 夫
小倉百詩	邑智郡	浄 泉 寺
点字図書目録	松江市	ライトハウスライブラリー
郵趣 しまね 第1号	出雲市	米 原 義 雄
句集 母	那賀郡	斎 藤 重 政
石東史叢	大田市	坂根 兵部之輔
随想詩集	出雲市	角 森 利 夫
出雲路へのいざない	松江市	小 森 清
小学校剣道部経営	松江市	犬 道 正 年